

第6章 総合的なコミュニティ分析

第1節 分析方法の概要

1 調査対象者の特徴

災害復興公営住宅には、住まいの被害が大きかった被災者が住んでいる

今回の調査対象者の特徴を捉えるために、住まいの被害状況、住まいの移動状況について、「2001年生活復興調査」と比較してみた。その結果、図6-1のとおり、今回の調査対象者の全壊・全焼被害率は74.5%と高く、「2001年生活復興調査」の調査対象者（16.2%）の4.6倍に達している。

また、100時間、1000時間といった時間経過と住まいの変遷（図6-2）を見ても、今回の調査対象者の方が避難所や仮設住宅、親類宅などといった応急避難や仮住まいの段階を経ていることがわかる。

これらのことから、今回の調査対象者は、住まいの被害が最も激しかった層、復興過程においてある程度の期間、仮住まいを経験した層であるということがわかる。

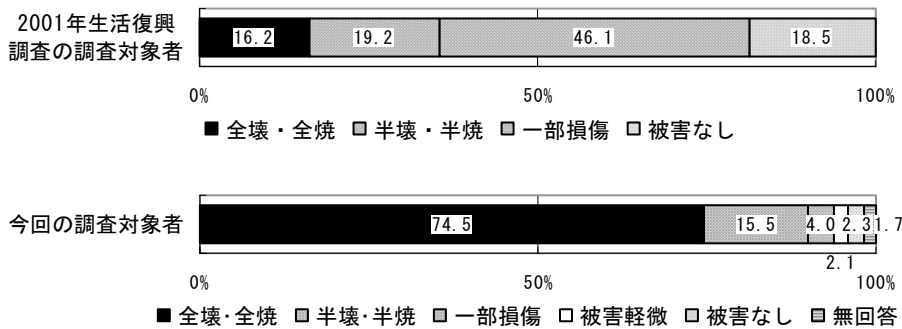


図6-1 (上) 2001年生活復興調査の調査対象者の住まいの被害
(下) 今回の調査対象者の住まいの被害

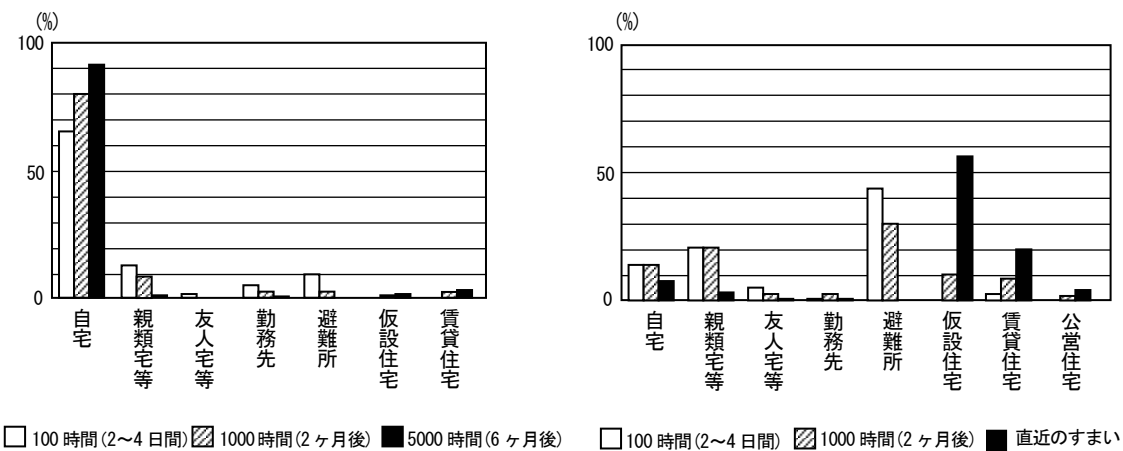


図6-2 (左) 2001年生活復興調査の調査対象者の移動過程 (右) 今回の調査対象者の移動過程

2 分析方法

(1) 分析方法

災害復興公営住宅団地においては、居住者が住み始めてから数年がたち、ようやく生活も落ち着き、コミュニティ活動や自治会活動が見えるようになってきた。このような中で、団地の立地条件や周辺環境（第2章）、居住者自身の住宅被害や移動状況、現在の住まいに対する評価、くらしの変化や近所づきあいの状況（以上、第3章）、自治会の活動状況（第4章）、公的支援者の活動状況（第5章）など、さまざまな状況や意識について、個人や世帯ごと、さらには団地ごとに差異が生まれてきており、「災害復興公営住宅居住者」という1つの概念で、すべての特徴を捉えることは難しくなっている。

震災から8年の間に生活を取り巻く環境が変化する中で、第2章から第5章までに述べてきた災害復興公営住宅の居住者を取り巻くさまざまなデータをもとに、本章第2節では、図6-3のとおり、コミュニティに関する諸要因が、居住者個々人の生活復興感（生活満足度と生活再適応感）に対してどのような影響を及ぼしているのかを分析した。また、第3節及び第4節では団地コミュニティや居住地移動の状況などについても分析を行った。

なお、分析にあたっては、さまざまな統計学の手法を用い、「生活復興調査」の2001年版や2003年版速報値との比較なども行いながら、それぞれの調査データ間に潜む因果関係や相関関係を定量的に明らかにした。

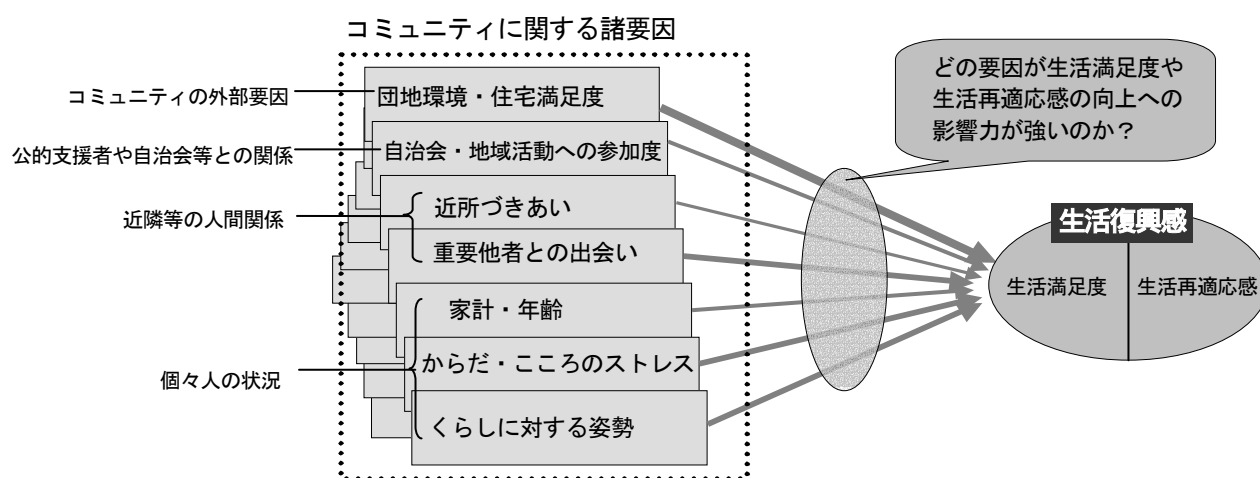


図6-3 分析方法の全体像

なお、分析にあたっては、主に以下の統計学の手法を用いた。

- ・因子分析：数値化された複数の要因（変数）がどのような相関関係にあるかを明らかにし、多数の相関関係の構造を要約して、データに含まれる関連性の大局観（因子）を発見する手法。
- ・等質性分析・最適尺度法・多次元尺度法：「はい・いいえ」や「男性・女性」といったカテゴリー回答（変数）をもとに、要因同士の類似性や同質性について大局観を手に入れる手法。

- ・ノンパラメトリック検定：統計手法のうち、母集団の分布について一切の仮定を設けずに行う検定手法で、標本から得られた複数のグループ間に差があるかどうかを検定する手法。カイ2乗検定はその一例。
- ・カイ2乗検定：クロス集計の結果から、要因と要因の間に統計的に意味のある関連性が認められるかどうかを検定する手法。
- ・一般線形モデル：ある要因（1つ又は複数）について、影響を及ぼすいくつかの要因（説明要因）によって統計的に回帰式として示すことができるものの一般的総称。重回帰分析やt検定、分散分析などがあてはまる。
- ・分散分析：回答者グループ間によって、平均値の間に統計的に意味のある相違が認められるかどうかを確かめる手法。

(2) 生活復興調査との比較

今回の調査対象者と、被災地全体の被災者との間にどのような相違があるかを見るために、必要に応じて「2001年生活復興調査」のデータと比較しているが、一部、現在集計、分析中の「2003年生活復興調査（速報値）」との比較も行っている。

また、「1999年震災後の居住地の変化と暮らしの実情に関する調査」及び「2001年生活復興調査」で提案された「生活復興感の指標化」の手法を参考に、本調査においても調査対象者の「生活復興感」を明らかにしている。

【参考】2001年生活復興調査

- ・調査地域：神戸市全域、兵庫県南部地震震度7地域及び都市ガス供給停止地域
- ・調査対象：3,300名（330地点→各10名）
- ・調査期間：平成13年1月15日～2月5日